

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 くきのうみ 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

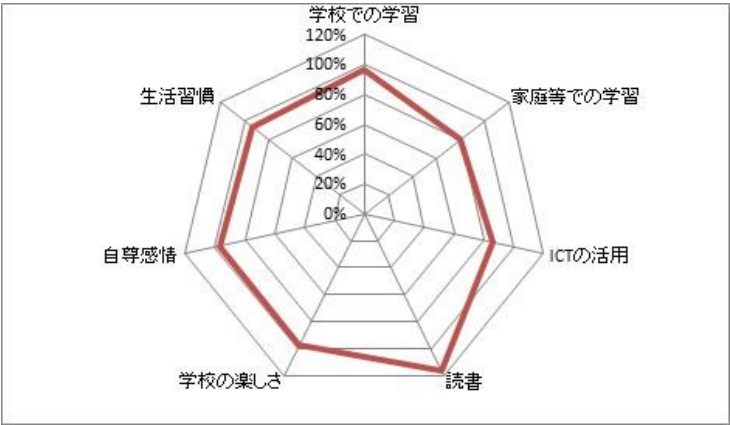
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	- 無解答率は低い。 - 言葉の使い方などの基礎的・基本的な知識・技能に関する問題への正答率が高い。 「書くこと」に関する問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えるなどの「話すこと・聞くこと」に関する問題 - 叙述に基づいて、登場人物の行動や気持ちを捉える、表現の効果を考えるなどの「読むこと」に関する問題	上回っている
	努力が必要な問題	文章全体の構成や書き表し方などを考えて文章にまとめるなどの「書くこと」に関する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	- 無解答率は低い。 - 表やグラフを活用して問題解決を図るなどの「データの活用」に関する問題への正答率が高い。 「図形」や、割合などの「変化と関係」に関する問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	- 正しく計算をしたり、目的に合った数の処理をしたりするなどの基礎的・基本的な知識・技能に関する問題 - 式や言葉を使って、自分の考えやその根拠を記述する問題	上回っている
	努力が必要な問題	- 図形の性質や構成の仕方を正しく捉えるなどの「図形」に関する問題 - 割合の変化を求めるなどの「変化と関係」に関する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	- 無解答率は低い。 - 実験や観察の結果から分かることを考察するなどの思考力・判断力・表現力を問われる問題への正答率が高い。 - 基礎的・基本的な知識・技能に関する問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	実験や観察の過程や得られた結果を適切に記録したり、提示された情報を分析して自分の考えをまとめたりする問題	上回っている
	努力が必要な問題	実験器具の名称や扱い方、科学的事象の性質の理解などの基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「読書は好きですか」という項目に対する肯定的回答率が高い。朝の学習の時間に全校一斉読書の時間を設定したり、児童会を中心として読書を促す取組を行ったりした成果であるといえる。 「授業では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という項目に対する肯定的回答率が高い。一方、ICTの活用に関する項目への肯定的回答率は低い。ICTの効果的な活用を含め、児童が自分の考えを明確にして書いたり話し合ったりできるような授業の工夫に全校で取り組んでいく。 - 家庭での学習時間が短く、SNSや動画視聴に費やす時間が長いことが明らかとなった。家庭と密に連携しながら、家庭学習への取り組み方やスマートフォンなどの正しい付き合い方に関する指導を継続していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 朝の学習の時間を有効に活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、発展的な内容に触れる学習を計画的に行う。 - 専科・持ち合い授業を推進し、各教員の専門性を生かしながら、児童が自分の考えを深め、広げていくことができるように、ICTの活用を含めた自分の考えを「書く」活動を充実させる。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

個人懇談会などの機会を効果的に活用して、家庭での生活・学習習慣の定着、SNSの使い方などについて保護者に啓発する。家庭の協力を得ながら、児童が自分の力で生活や学習の計画を立てて実践し、振り返ることができるような指導を継続する。
